

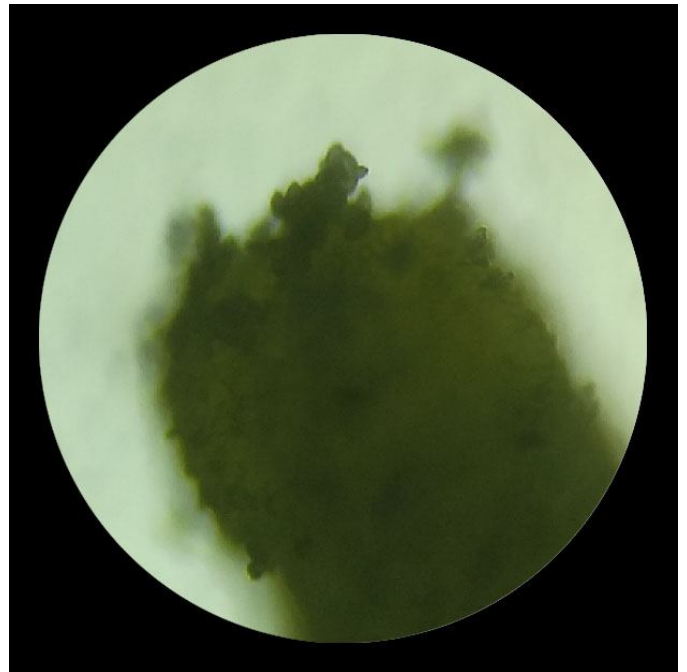
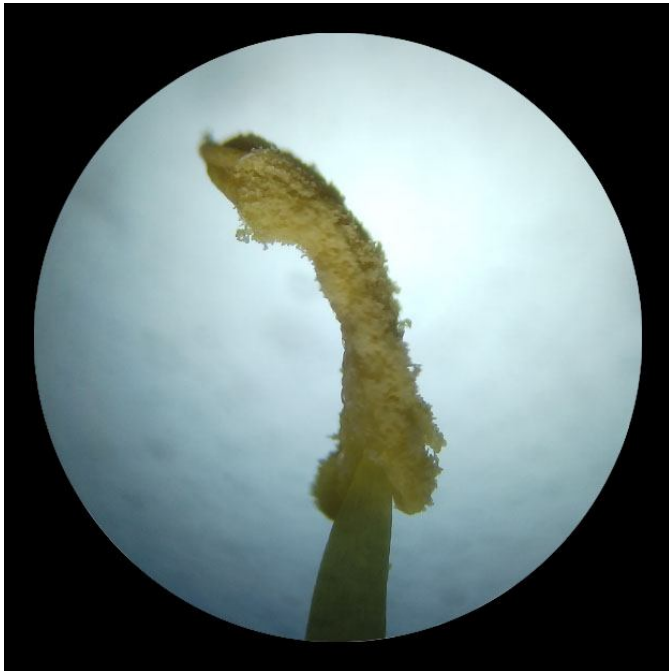
「春キャベツの実験 (2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

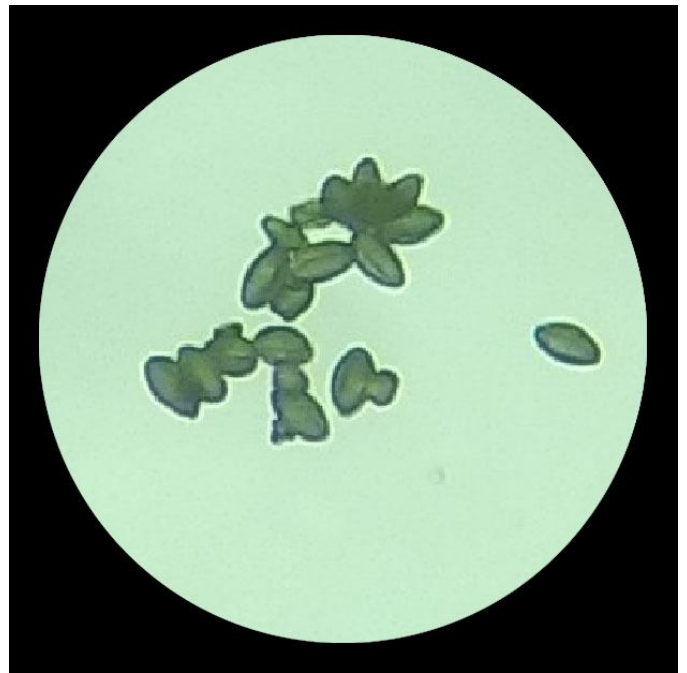
田中 千尋 Chihiro Tanaka

※2019 年秋の活動記録です。

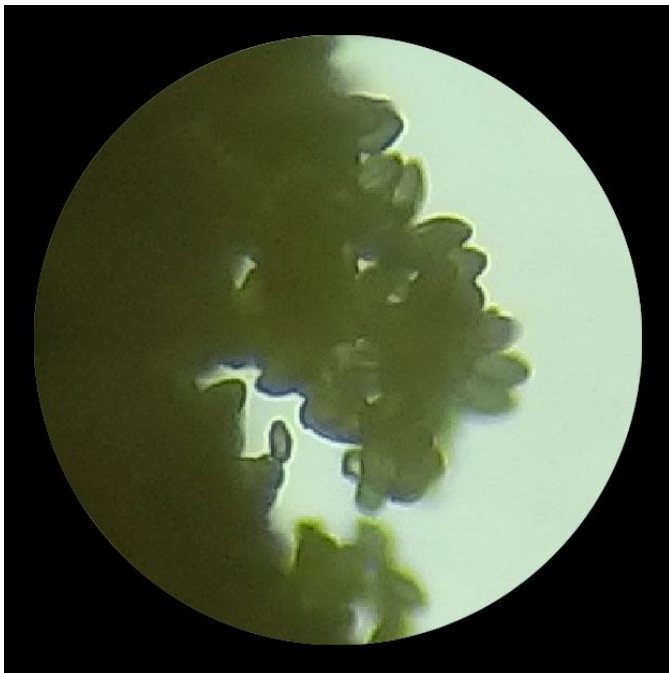


1本しかない、雌しべの先端(柱頭)も観察してみました。ピント合わせがなかなかうまくいかなかったが、丸い先端に、やはり花粉がたくさんついているのがわかった。

まず、雄しべの先端(葯)を顕微鏡観察をしてみた。倍率は40倍(接眼10×対物4)である。粉をかぶったように見える。おびただしい数の花粉がついているということだ。



最後に、葯をスライドにとって、花粉だけを観察してみた。キャベツの花粉を観察するのは、私も初めてである。やや細長く、中央に溝があるようだ。「コーヒー豆」或いは「エゴノキの種子」に似ている。アブラナの花粉を観察するには、公園や花畑に出かけなければいけない、しかし今の時期の「春キャベツ」には、結球葉の内部に花穂(つぼみ)が入っていることが多い。ちょっと気を付けていれば、キャベツは花を咲かせ、花そのものの観察だけでなく、花粉の観察も十分に可能なこともわかった。



一部分を拡大し、100倍で観察してみた。透過光と反射光を組み合わせている。お米のような粒がたくさん見えてきた。やはり、ものすごい数の花粉だ。